

申7号「駅体制の見直し」に関する申し入れ 団体交渉開催！①

1. 今施策の目的を明らかにすること。

会社：「変革2027」の実現に向け、効率的な業務執行体制を構築し生産性の向上を図り、経営体質の抜本的強化に取り組む必要があることから、駅体制の見直しを実施することとした。

組合：営業統括センターが発足し半年が経過した。成果と課題を明らかにすること。

会社：社員の多能化が進んでいる認識である。

組合：各関係運輸区との兼務について。現在行っている業務と展望を示すこと。

会社：業務の融合を図っている。土浦営業統括センターでは、土浦駅の「乗客」ダイヤに車掌業務を担う社員が見習い業務を行っている。水戸営業統括センターでは改札補助や券売機等の案内、勝田営業統括センターでは出改札業務に乗務員、当務駅長には勝田運輸区副長がそれぞれ業務に就いている。将来的には時間単位や日単位での業務の融合を図りたい。

組合：今施策では、どのような内容を実現していくのか考えを示すこと。

会社：石岡駅・水戸駅・日立駅で効率的な運用を行う考えである。

2. 今後のみどりの窓口の販売体制を具体的に示すこと。また、お客さまサービスを低下させない施策とすること。

組合：今後のみどりの窓口の販売体制を具体的に示すこと。

会社：みどりの窓口を2025年度までに、3割から4割を閉めていく考えを本社がプレス発表した。みどりの窓口に依らない体制を構築していくため、チケットレス化を推進する考えである。

組合：水戸支社におけるみどりの窓口の販売体制を示すこと。

会社：水戸支社では2021年度みどりの窓口設置駅は24駅である。今後3～4割程度にするため、10駅前後になると予想する。今回の提案により、みどりの窓口販売体制は18駅となる。

組合：みどりの窓口がない駅でのお客さまサービスの在り方を示すこと。

会社：新たな価値の創造や丁寧な案内等を行う考えである。

組合：今後、みどりの窓口を閉鎖する場合、「話せる指定席券売機」を導入すること。

会社：ご利用状況を踏まえて判断する。指定席券売機で9割以上のお客さまは対応出来る。水戸支社は指定席券売機の導入駅は多い。

組合：スリムな体制構築により、お客さまサービスの低下を招いていないか。

会社：エリアのバランスを見た中で、段階的に判断している。関係自治体への説明や機器の改修は行っている。

組合：指定席券売機が使いづらく、窓口と並ぶ現実がある。水戸支社として独自に判断すべきではないか。

会社：指定席券売機の増備や「話せる指定席券売機」は現場を見て判断している。今施策において、東海駅の指定席券売機を増備する。

組合員が安心して働きやすい職場を実現しよう！